

企画セッション
「雪結晶をめぐる最近の話題」

9月29日（水）16:00-18:00

東京エレクトロンホール宮城 会議室 601（A会場）

主催：雪結晶の新しい分類表を作る会

趣 旨

雪結晶の分類は、中谷による分類（Nakaya and Sekido, 1936; Nakaya, 1954）、1949 年国際雪氷委員会が制定した実用分類（例えば、Mason, 1971）、孫野による分類（Magono and Lee, 1966）などがこれまで提案されてきた。この中で孫野による分類は最も新しく、現在でも雪結晶の名称を記載する際には参照される事が多いが、この分類表でさえ出版からすでに 44 年が経過しており、その後の極域での多くの観測や人工雪生成実験の成果などを取り入れた新しい雪結晶分類表の作成が待たれていた。

このような状況に対応するため、2009 年 10 月の雪氷学会全国大会時に「雪結晶の新しい分類表を作る」企画セッションを開催し、それ以降、この企画セッションに参加した方々を中心として、雪結晶の新しい分類表の検討を 350 通を超えるメールおよび検討会にて進めてきた。

今回の企画セッションでは、この「新しい雪結晶の分類表を作る会」の活動紹介、新たに作成した「雪結晶の新しい分類表」の提案およびこれに関する議論、最近の雪結晶に関わる話題を提供してもらいます。雪結晶に関心のある研究者や学校教員の方々はお集まり下さい。

コーディネーター 樋口敬二、亀田貴雄

プログラム

1. 雪結晶の新しい分類表を作る会の活動について
亀田貴雄（北見工業大学）
2. 雪結晶の新しい分類表の提案
菊地勝弘（北海道大学名誉教授）
3. 最近の話題
 - 1) 南極ドームふじでの雲底高度計による降雪観測
平沢尚彦（国立極地研究所）
 - 2) 宇宙から見る大気中の氷と雪
早坂忠裕（東北大学）